

# 友の会事業活動から

## 友の会世話人を辞めて思うこと

及川香代子

ある先輩に世田谷美術館友の会の世話人にならないかと誘われて世話人会の一員に加えていただいてからあっという間に30年経ってしまいました。今より大分若かった私にとって当時の世話人会は、錚々たる方々のアカデミックな雰囲気の会という印象でした。

広報部に所属していましたが、パソコンも普及していなかった頃は割り付け用紙に一字一字マスを数えて原稿を配分し、写真もパラフィン紙を貼って希望サイズに鉛筆で線を引き、とアナログもいいところでしたがそれもまた楽しい作業だったかもしれません。

楽しかったことや教えられたことなどたくさんあり書ききれませんが、面白かったことの一つは美術館と友の会共催の「さくら祭」でのフリーマーケットです。フリーマーケットは買い手と売り手の駆け引きがあり買うのも売るのもワクワクします。しかも僅か数百円の世界で!

砧公園内にある世田谷美術館ってホントに楽しい所です。特に嬉しいのは30年の間にいろいろ見聞きて美術への関心が一層深まり、美術がこれからの人生の楽しみとなっていることです。

世話人会は、美術館に協力できることは何か、会員に喜ばれることは、またお互いに仲良くなれることはと常に考えて活動しています。今はコロナ禍もあり運営の難しい時ですが創立当初の理念に沿って世話人一同まだまだ頑張っていくでしょうし、私もこれからは会員の一人として友の会を応援していきたいと思っております。



「さくら祭」でのフリーマーケット

## 私のお薦めアート本

### 一思慮深さと礼儀正しさの波動一

田中はるみ

写真集『The North Woods 生命を与える大地』(クレヴィス)  
『そして、ぼくは旅に出た。はじまりの森 ノースウッズ』(あすなろ書房)



この2冊は自然写真家、大竹英洋さん(1975年生、世田谷育ち)が写真家となる迄の思慮深い行動と礼儀正しい人柄がいくつもの出会いをもたらし物語です。

2020年11月に20年間の集大成として、「富士フィルムフォトサロン東京」でオリジナルプリントが展示されました。学生時代にカメラを通して、いつか狼に出会うのを夢見て伝手のない北米ノースウッズに分け入ったのです。この地域は約一万年前の氷河期が残した世界最大級の森林地帯で、原生林に千以上の湖がある自然保護区です。

カナディアンカヌーを漕ぎ、島に上陸してテントで野営をし、焚火に照らし出された孤独な姿が浮かび上がります。オーロラの輝く夜は深い沈黙の安らぎです。目的地への情熱は地図とコンパスだけが頼りの探訪です。広大な森にあって野性動物に出会い、思うような写真を撮るのは容易ではありません。困難を誠実に忍耐強く乗り越えて行くみずみずしい感性が文章と写真に展開されます。不測のコロナ禍にあって、変幻する神秘に満ちた自然にひっそりと足元を定め、レンズの先に澄んだ光が写し出す静寂の心地よさに夢になっていました。

その後、写真集が“土門拳賞”を、もう一冊が“梅棹忠夫・山と探検文学賞”をそれぞれ受賞し、この朗報は、私に一層の力を与えています。世田谷美術館で展覧会が実現するのを願って止みません。

## 世田谷美術館友の会 HP 委員会 「砧の森」～会員作品参加サイト～

「砧の森」と検索すると、世田谷美術館友の会 HP の「砧の森」がヒットします。開始から1年になる8月、応募作品は170点に及び、「砧の森」は静かに賑わっています。

昨年春、HP 委員会は、“コロナ禍で会員が安心して参加し交流できる活動”を模索していました。そこで誕生したのが「砧の森」、会員が創作した作品の写真による発表サイトです。絵画、版画、彫刻、陶芸、手工芸など様々な作品が鑑賞できます。常時掲載のバックナンバーもあります。

応募したい方は、作品の写真を事務局へメールまたは郵送してください。開設1年を迎え、新たに“コメント欄”を設けました。作品に込めた思いを1文添えてください。約1か月後、あなたの作品が「砧の森」に掲載されます。

忘れていた旅先の思い出の一枚。いつもリビングに飾っているお気に入り。実技講座で頑張った大切な作品。会員作品展で発表した力作。また、昨日完成したピカピカの新作も大歓迎です。「砧の森」に参加すると決めたら、自分の作品とじっくり向き合うかけがえない時間が生まれるかもしれません。

HP 委員会は今後も会員の参加、鑑賞そして交流のサイトとして「砧の森」を運営していきます。皆で盛り上げていきましょう。

(友の会 HP 委員会)

### 会員作品集



トップページのこのアイコンをクリックしてください。

## アートライブラリー通信

### 第4回 セタビ建築を知るために：「波模様」の秘密

世田谷美術館は1986年に建築家・内井昭蔵によって設計されました。『内井昭蔵のディテール：生活空間としての美術館・世田谷美術館』(彰国社、1987年)は、内井が館を設計するにあたって構想した「生活空間としての美術館」「オープンシステムとしての美術館」「公園美術館」という3つの基本的な考え方が詳しく語られると共に、各所の詳細な図面がまとめられています。

本書で内井は「生活空間としての美術館」を実現するために、細部のデザインにまでこだわり、親しみやすさや肌なじみの良さを意識する中で、モチーフの一つとして様々な「波模様」を用いたとしています。また、波には「この美術館が文化の拠点として、芸術の運動の波が市民生活に伝播していくように」という思いも込めたと語っています。連なる屋根は青海波文様(日本の伝統的な文様)、階段の手すりは大波、エントランスの床は波紋。館内を歩いていると、建築家からのメッセージの一つとも言える波模様をあちらこちらで見つけることができます。本書には、このほかにも内井がセタビ建築の細部に込めた思いや、こだわりを知るためのヒントが隠されています。



内井に関する資料は、アートライブラリー内「世田谷の建築」コーナーにあります。

アートライブラリーでは、内井の建築論をまとめた著書『健康な建築』(彰国社、1985年)や、2009年当館開催「内井昭蔵の思想と建築」展の図録などもご覧いただけます。

(世田谷美術館学芸部 司書/須藤美麗)

## 友の会講座 三宅一樹講師に聞く

三宅一樹先生は、東京都出身の彫刻家です。多摩美術大学彫刻科を卒業され、同大学院美術研究科博士後期課程修了、博士号を取得されました。近年は精力的に個展を開催される中で、世田谷美術館美術大学で講師をなさっています。友の会でも2015年から木彫刻講座の講師をお願いしております。



### Q1. 先生が石や金属ではなく、木彫を選ばれたきっかけを含めて、木に対する思いをお聞かせください。

石彫も金属彫刻も好きですよ。大学時代、ひと通りの実材を経験した上で、確信を持って木彫を専攻しました。少年時代からとにかく木が好きだったことに加えて、決め手は「木は唯一の生命体」であるということです。人間と同じで、樹種はもちろん、同じ種類でも育ちや性格も違います。その個性は美しいと感じます。しかも「木にはウソがない」のです。瘤も曲がりも節も、すべて成長過程での理由があり、経験なんです。その生き様に想いを馳せると、頑張って耐えてきたんだと敬意さえ覚えます。

### Q2. これまでの作品のテーマをお聞かせください。

ライフワークとしての作品テーマは二つあります。「YOGA」と「神像彫刻」です。この二大テーマに加えて最近では、「聖猫」も加わりました。猫と暮らしている中で、猫が持つ聖性を見出したのです。これを「今、かたちにしておかなければならない」という喫緊の課題として取り組んでいます。

### Q3. 創作をする際に、特に大切なことは何でしょう。

「創作してやろう」と思わないことです。"creation"よりも"imagination"のほうが大切だと思っています。私の場合、自分の熱烈な想いと、木の個性との接点を探った結果、彫刻というかたちとして生まれた、ということです。

### Q4. コロナ禍にあって先生のアイデアで野外彫刻鑑賞の講師をしていただき、大変好評でした。今後講座を通して友の会会員に特に伝えたいことは何でしょう？

昨年実施しました野外彫刻講座は、室内創作室での対面授業が難しい状況下で、逆境をプラスに転じて思いついた企画です。しかしそれは、近代彫刻史を語れるだけの名作を世田谷美術館が所蔵していたからこそ実現できました。灯台下暗しだったのです。多くの皆さんが「わからない」と言う抽象彫刻についてもお話できたことは、有意義だったのではないかと思います。

私は彫刻を30年手掛けておりますが、つまらないと思ったことは一度もありません。年を追う毎に楽しくなっています。ただ、彫刻実技は決してお手軽ではなく、大変な手間がかかることも事実です。現代は「簡単・時短・便利」を求める風潮ですが、彫刻はその真逆です。「簡単に入手できるものは、簡単に失うもの」ではないかと私は思うのです。木という素材、技術、道具の背景には、日本文化の歴史が詰まっています。木彫刻講座を通じて、心の奥底で感じる充実と知的感動を、皆さんと一緒に共有できたら嬉しいです。

### Q5. 彫刻家としての将来の夢をお聞かせください。

夢は二つあります。一つは彫刻家人生としての究極の目標で、「作品が二千年遺る」ことです。残念ながら自分では確認できませんが……。もう一つは具体的な夢で、「世田谷美術館で個展を開催する」ことです！

(インタビュー/友の会広報部)

\*「友の会講座 講師に聞く」インタビューは今回が最終回です。友の会実技講座が再開の際は、ふるってご応募ください。



彫刻が見える風景(土谷武《遠くがみえる》1986年撮影：三宅一樹)  
何トンもある銅鉄板が、風を孕み、軽やかにジャルダン(庭)に舞う空間を演出。彫刻家の綿密な計画により、モノとモノとの息づかいを感じさせます。



三宅一樹《野外彫刻のクロッキー》(本郷新《わだつみの声》1950年)  
美術館入口に立つ裸の男には、実は戦後日本の激しい運命と苦難を一身に背負ってきた過去があります。内から漲る力には、彫刻の美と情熱を感じます。

## 思い出の美術館

## ミデルハイム野外彫刻美術館(ベルギー)

三橋活也

ヨーロッパへ出張の際、アントワープ駅での乗継時間を利用して駆け足で行って来た。

六月、美術館は緑豊かな公園の中、向こうから来た若い男性が今日は休館、企画展示のみオープン、場所はあちらと大雑把に森を指さした。貰った公園の地図には所々に番号がありそこに彫刻作品があった。作品は30点ほどで多くは木立や叢にあった。テーマは“自然との調和”ってところだなと小径を歩く。

少し進んだところで次の作品が見あたらない。弱ったなと空を仰いだら、作品は頭上5、6メートルほどの所にあった。セメント色で1メートル程の人物彫刻数点が木の幹に取付けられていた。子供が空で遊んでいるような不思議な感覚だ。散策も終盤にさしかかった頃、再度作品を探すことになった。さっきは上、ならば今度はと下を見ると、小川の取水口?が作品だった。そういえば、出来たばかりの白さだった。

彫刻の屋外展示を鑑賞というか森で宝探しをしたようだった。昔の事、映像は浮かぶが作家、作品名は出てこないのが残念。



## みんなのギャラリー

## コロナ禍でみつけたたのしみ

藤田絵理

昨年の秋、油性タイプのポリクロモス色鉛筆60本セットを購入しました。在宅勤務になり、家でできる楽しみを増やそうと思ったからです。色鉛筆のよさは、その手軽さにあり、さっと始められて、片づけられる点でしょうか。日頃、電子機器ばかりに囲まれて、また使用していると、ふと紙や布など自然の感触があるもので、手を使ってみたくります。手をしっかりと使っていると、よい気分転換になるようです。

最近は季節の花などはがきに描き、文を添え、友人に送ったりしています。幸い喜んでくれる人が多いので、さらにやる気が出てきます。油性の色鉛筆は、色を重ねる順番・筆圧で、発色がかなり変わるので、まずは自由に使いこなせるようになってほしいです。目標は、ずっと心惹かれる、安野光雅さんやウィリアム・モリスの作品、ヨーロッパの時祷書のような、植物や鳥が模様のようにになっている絵。これからも、コツコツと描き続けたいと思います！



## 吉田絵美学芸員に聞く

吉田絵美学芸員は以前も世田谷美術館で勤務されていましたが、この4月に普及担当に戻ってこられました。さっそく吉田さんにインタビューしました。(インタビューは8月初旬)



### Q1. 他の美術館での経験と世田美に戻られた理由などを伺います。

世田美に非常勤で約5年勤めまして、その後群馬県前橋市のアーツ前橋という市立美術館へ移りました。そこでは、企画展や学校への出張授業、広報などの学芸の仕事を経験しました。

世田美に戻った理由のひとつとしては、以前経験した普及の仕事が面白く、より深く関わっていききたいという希望があったからです。

Q2. 世田美での普及の仕事もコロナ禍で影響を受けていると思いますが？私が戻ってきた4月には、既にデジタルコンテンツの発信が始まっていた。当館公式 YouTube の「美術大学通信講座」や「セタビチャンネル Jr.」などです。

また、世田谷区立の全小学校が来館する鑑賞教室は今年の前半、ほとんど中止になりましたが、その代わりに世田美からライブ中継などを行いました。1人が学校に出向き、私も含め他の学芸員がカメラを持って展示室に入りオンラインで紹介したわけです。試行錯誤の連続でした。

### Q3. 今後さらに新たなやり方は？

9月から講義のみの「美術大学特別セミナー」を開催します。当館の学芸員の講義を、週1回、全12回のシリーズです。世田美のホームページに発表済みで、実は既に応募をいただいています。抽選なんですけれども、もう50名の定員を超えています。講堂またはオンラインで実施します。

多くのイベントが中止・延期になるなか、美術館は開館できている以上、少しでもできることをと思い、館長とも相談しながら実現しました。

### Q4. 現在ほかに関わっている事業はありますか？

これも、ホームページに出ています、「夢の解剖——猩々乱」という、能楽師とイタリア人の振付家・演出家ルカ・ヴェジェッティによるパフォーマンスイベントを開催予定(2021年10月5・6日)で、サブ担当として関わっています。世田美は開館からパフォーマンスイベントを度々開催しており、今後も是非引き継いでいきたいと思っています。

### Q5. 前橋で企画展をされていますが、世田美ではそちらの方向はありますか。その場合、どんなジャンルに興味がありますか。

もちろん展覧会の企画にも興味があります。特に関心があるのは近現代美術です。なかでも、同時代の作家が現在の社会状況や時代性をどのようにとらえ、いかに表現しているのか、という部分を作品に見出していくことは面白く、学生時代から関心を寄せています。また音楽やパフォーマンスなど、芸術文化の他ジャンルと美術がどのような関連を持ちうるかという部分にも興味を持っています。

(インタビュー/友の会広報部)

## 友の会会員向け期間限定企画

### アートの空間で至福の時を 〜ル・ジャルダンの特別サービス〜

世田谷美術館に併設されている素敵なおしゃれなフレンチレストラン「ル・ジャルダン」をご存知ですか？四季折々の砦公園の風情を満喫しながら豊かな時間を過ごすことができます。「グランマ・モーゼス展」の鑑賞とともに、ル・ジャルダンでのお食事をお楽しみになりませんか？

友の会会員は会員証を会計時に提示するといつでも5%引きですが、さらに今回のキャンペーン期間中は食後のコーヒー1杯が無料となります。会員の方と同伴の3名様まで適用されます。

この機会にぜひご友人やお知り合いに友の会へのご入会をお勧めください。

☆期間：2021年11月20日(土)～2022年2月27日(日)  
(「グランマ・モーゼス展」会期中)

☆内容：(1)合計額の5%割引(2)食後のコーヒー1杯無料サービス

\* コーヒーのみの注文またはコース内容にコーヒーがセットになっている場合は除く



### 友の会会員の皆様のメールアドレス登録について

友の会では、今後、会員の皆様のメールアドレスを登録させていただくことにいたしました。住所や電話に加えて情報連絡手段を増やすことによる会員の皆様の利便と事務の効率化が目的です。登録は任意ですが、ぜひご協力をお願いします。

## ご寄付のご報告及びお礼

世田谷美術館友の会では、コロナ禍にあつて会の存続と美術館支援のために皆様に会員継続とご寄付をお願いしております。

寄付金は2021年9月30日現在、累計で822,848円となっています。この度この寄付金の一部を使い、世田谷美術館とも相談の上、とても貴重な小川千鶴画巻「越後絵日記」を購入することができました。今後、寄贈の手続きをするとともに会員の皆様にもNEWS LETTERでご紹介する予定です。

ご寄付をいただきました皆様と会員更新をしていただいた皆様に心よりお礼を申し上げます。

沖島保子 大島知子 北村節子 匿名1名(前回以降の方々、順不同、敬称略)  
(会費と寄付金の郵便口座 口座記号:001303 口座番号:119860 名称:世田谷美術館友の会)

## これからの事業について

◎会員作品展 11/17(水)～21(日)

◎木彫り講座

◎油彩講座

\* 各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆様にチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。コロナ禍の中の制約はありますが、美術館のご協力を得ながら、可能な限り事業の実施を検討してまいります。

### 世田谷美術館友の会への入会のご案内

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「芸術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポーター・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。



お問い合わせは友の会事務局へ  
入会案内(リーフレット)や  
下記ホームページもご覧ください。

tel.03-3416-0607

<https://setabi-tomonokai.jp/>